

身近な文化財

第一話
文化財とは
なにか？

文化財とは、限られたごく一部のものを指すと考える方も多いかもしれませんが。

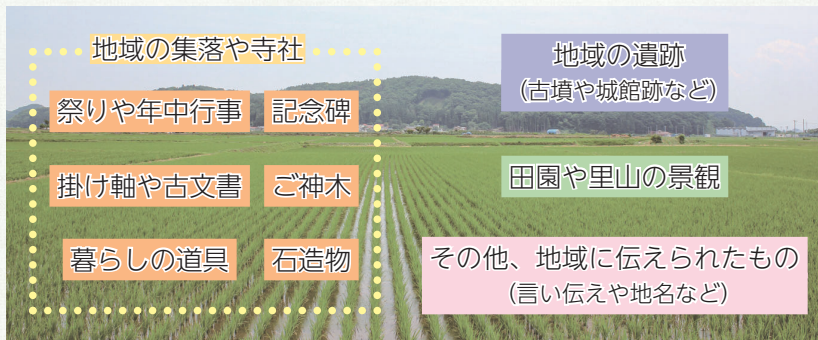
国や自治体では文化財の指定制度を設け、歴史、学術、芸術上特に価値の高いものについて保存が図られています。

ただし、指定されていなくても、地域の大切な文化財であることに変わりはありません。例えば指定されていない古文書も、土地の歴史の証拠です。失われると、そこに記されていた歴史は二度と分からなくなってしまう。

地域の文化財をまとめたものとして保存し、次の世代に引き継ぎ、地域づくりに活用するため、平成31年に「文化財保存活用地域計画」の制度が設けられました。市でもこの計画を策定し、令和3年12月に県内で初めて文化庁の認定を受けました。では地域の文化財とは、具体的にどのようなものなのでしょう。

「文化財保護法」によれば、文化財とは建物、美術品、古文書、暮らしの道具、祭礼や行事、遺跡、希少な動植物などです。それに加えて近年は、長い人の営みが作り出した文化的景観、食文化や茶道といった生活文化も含まれるようになってい

～身近な文化財の一例～



ます。文化財は、遠いところにある貴重品ではなく、より身近なところにあるのです。今月号から、地域の身近な文化財を取り上げます。家の中や道ばたなど、文化財は思わぬところで見つけることが出来ます。

文化財課 ☎ 2310

～白河の景観を守り・つくり・育てる～

景観まちづくり通信

Vol.1

今月号から、白河の景観まちづくりについてシリーズでお知らせします。

本庁舎都市計画課 内2235

「景観」ってなんだろう？



「景観」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？遠くの山並みでしょうか。それとも、住宅やお店が建ち並ぶ街並みでしょうか？

景観は、目に見える眺め（景）とそれを見る人の感じ方（観）によって生み出されるものです。

そして、通勤や通学、買い物、散歩など、普段の生活で目にする景色の裏には、先人が守り築き上げてきたこれまでの歴史や風土、伝統や文化、人々の暮らしや経済活動などが詰め込まれています。

そのような背景にも想いを巡らせながら、少し違った視点でいつもの景色を眺めてみませんか。

今まで気づけなかった新たな発見があるかもしれません。

景観まちづくりになぜ取り組むの？



皆さんが「きれいだなあ」「心地よいなあ」と感じる白河の景観を思い浮かべてみてください。

「きれい」「心地よい」と感じる良好な景観は、私たちの生活に潤いと安らぎを与えるとともに、白河を訪れる方へのおもてなしにもつながります。

景観まちづくりは、大がかりな整備だけでなく、草花の手入れや清掃活動など、身近な取り組みがとても大切です。

白河の良好な景観を守り、新たな魅力をつくり、育てながら、先人から受け継いだ景観のバトンを次の世代につなぐため、市民や事業者の皆さんと行政が協力し、景観まちづくりに取り組みましょう。